

あの日、なぜ津波から この神社は残ったのか。

東日本大震災後に撮影した、岩手県大槌町・天照御祖神社の鎮守の森。



写真：佐藤 充 (BEAM × 10)

地震で発生した津波や火災、土砂崩れなどの自然災害に役立つ
「防災の森」に特化した森づくりをしています。

これまで、東北の被災地を中心に、海岸・内陸・山沿いに

約44万本の苗木を、5万人のボランティアと共に植樹してきました。



防災機能1 津波の威力を弱め、漂流物を食い止める。

東日本大震災では、神社を囲む常緑広葉樹を中心とした森が防災林として大きな役割を果たしました。低木・亜高木・高木などからなる多層構造の森が緑の壁となり、津波の威力を弱め、被害を最小限に防いでくれたのです。また、地中に真っすぐ深く張った根は津波に倒れることなく漂流する家や車を受け止め、沖に流されるのを食い止めました。これは、伝え残さなくてはならない知恵です。土地に適した種類の木を植えると、苗木は1年で1mほど成長し、20年ほどで立派な森になります。私たちは、このような地域と暮らしを守る森づくりをすすめています。

押し波では

多層構造の森が緑の壁となり、
破碎効果で津波の威力を和らげ、
水位も低下。避難時間を稼ぎ
家屋の破損も減少させます。



引き波では

深根性直根性の根で倒れない
木々が、漂流する物を受け止め、
沖に流されるのを食い止めます。

東日本大震災直後の宮城県多賀城市にある常緑広葉樹の森





受け継がれてきた「鎮守の森」づくりの知見と、植生学・植物生態学をふまえ、あらゆる自然災害に耐える防災の森をつくります。鎮守の森のプロジェクトで行っている植樹は、長年の植生調査によって確立した、その土地に適した十数種類の木を密植・混植し、木を互いに競争させながら森をつくっていくというものです。この方式により、在来の多様な樹種によって構成される豊かな森を、わずか20年ほどでつくることができます

写真左：理事長 細川護熙(元首相) / 右：副理事長 宮脇昭(横浜国立大学名誉教授)

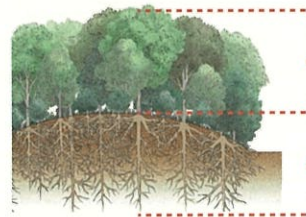
防災機能2 火災時の延焼を防ぐ。

火災時には、水分を多く含んだ常緑広葉樹が延焼を防ぐ役割を担います。関東大震災では、避難広場の敷地を囲む緑の壁の有無がいのちを守る境目にもなりました。写真右：常緑広葉樹が大火から集合住宅を守った(阪神淡路大震災直後 1995撮影)



防災機能3 台風や豪雨に強い。自然の土留め効果。

十数種類の常緑広葉樹を植える森は、スギやマツなどの単植林に比べ、「根が真っ直ぐ深く張る」「緑の表面積が多い」などの特長があります。これにより、台風や豪雨でも倒れにくく、自然の土留め効果のある森となり、災害時に二次・三次の被害を防ぎます。



高木の樹高
約20m

根は樹高と同じ
約20mまで伸びる

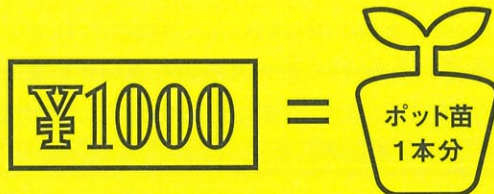
利点1 メンテナンス不要で低コスト。

最初の3年間は草抜きなどのメンテナンスが必要ですが、その後は自然の力で循環し、およそ20年で森になります。この方法は、成木を植えて毎年除草や枝打ちなどの管理を必要とする森より低コストででき、かつ災害にも強いのです。

利点2 子どもでも簡単に植樹。

成木を植えるには、専門的な知識や技術を必要としますが、30~50cmの苗木(ポット苗)を植樹するこの方法は、簡単な植樹指導を受ければ、子どもからお年寄りまで、簡単に植樹することができます。また、活着率は98%です。

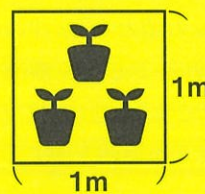
寄付のお願い



私たちは、皆様のご寄付で森をつくっています。土壤改良費や資材費など含め、およそ1000円で1本のポット苗を植えることができます。

寄付金は税制優遇の対象になります。

森づくりのお願い



基本は、1㎡に3本植樹
1000苗=約100坪を
植樹することが可能

企業・団体様のご希望に合わせ、4~10月に個別植樹を随時おこなっております。これまで、CSR活動、新入社員研修や創立記念行事の一環として植樹していただいております。費用や植樹までの詳細についてはお問合せください。



【お問合せ先】公益財団法人 鎮守の森のプロジェクト
東京都港区虎ノ門3-7-2 2階 / TEL:03-6432-0085 / FAX:03-6432-0086
MAIL:info@morinoproject.com / URL:www.morinoproject.com

鎮守の森 検索